

課題名： 脊髄小脳変性症患者に対する集中リハビリテーションの効果に関する後ろ向き研究

研究対象者： 2016年9月1日～2018年6月1日の間に滋賀医科大学医学部附属病院・神経内科において、「入院リハビリテーション」を受けた脊髄小脳変性症（SCD）の方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報(及び生体試料)を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。

対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、この研究への参加(試料・情報提供)を希望されない場合、あるいは研究に関するご質問については、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名： 脊髄小脳変性症患者に対する集中リハビリテーションの効果に関する後ろ向き研

究研究期間： 滋賀医科大学長承認日（2018年6月29日）～2020年3月31日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学医学部附属病院リハビリテーション部 園田 悠馬

(2) 研究の意義、目的について

脊髄小脳変性症（SCD）は、根治的な治療法がなく、今のところリハビリテーション（リハ）が有効な対症療法の一つです。近年、SCDの主な症状であるバランス・歩行、上肢巧緻運動、言語における震え障害（運動失調）に対し、集中的に訓練するリハの有用性が報告されています。そこで当院では、4週間のSCDリハ入院を行っており、運動失調（Scale for the Assessment and Rating of Ataxia：SARAスコア）、日常生活動作（ADL）、生活の質（QOL）の改善などの成果をあげています。

この研究では、SCD患者さんを対象とした集中リハ入院の効果と患者さんの特性を詳細に検討することを目的としています。リハ効果が得られやすいSCD患者さん特性を解明し、同様に、リハにおけるより有用な評価の選定を可能とし、患者さんの負担を少なくし、より適応的なリハ入院プログラムの開発に役立つと考えています。

(3) 研究の方法について

研究内容： SCDリハに対する過去の診療記録「カルテ」から以下の情報を得て統計学的解析する（後ろ向き研究）

研究に用いる情報の種類：

背景情報： 年齢、性別、身長、体重、罹患期間、併存疾患、内服状況

治療中に得られた情報： SARAスコア、筋力、バランス能力と転倒評価、最終学歴と認知評価、気分・QOL、ADL自立度評価、言語能力

(4) 個人情報の取扱いについて

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。

停止を求められる場合には、2018年10月31日^{*}までに下記（8）にご連絡ください。

ただし、それ以降^{*}に撤回の意志を示された場合には、当該研究対象者の研究データは使用させていただきます。

(8) お問い合わせ先等

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部

電話番号：077-548-2670

メールアドレス：yuma@belle.shiga-med.ac.jp（園田 悠馬）